

日本産業衛生学会東北地方会ニュース

みちのく

No.62
12/13
2019

発行/令和元年12月13日・発行所/日本産業衛生学会東北地方会事務局
住所/〒980-8575 宮城県仙台市青葉区星陵町2-1 (東北大学大学院医学系研究科産業医学分野内)
電話/022-717-7874・FAX/022-717-7883・e-mail/sanei-michinoku@doh.med.tohoku.ac.jp・発行人/黒澤 一

第29回全国協議会を終えて

運営実行委員長 菅原 保
(医療法人健友会 本間病院)

第29回日本産業衛生学会全国協議会は9月12日から14日まで仙台国際センターで開催され成功裏に終わることができました。皆様には開催までの準備、当日のスタッフとして大変ご苦勞をおかけしました。参加人数が予想を大幅に超え1,177名となり、うれしい悲鳴と同時に対応された皆様、参加者にご迷惑をおかけしました。

今回の全国協議会は「“働きたい”を支える産業保健」をテーマに、9つのシンポジウム、10の教育講演、12の自由集会、ワークショップ、4部会企画などが開催され、実地研修は震災遺構見学も含めて6か所、ポスターも100演題で大変盛況でした。

メインシンポジウム「“働きたい”を支える産業保健」は、女性労働者、高齢労働者、介護離職・介護問題、外国人労働者を取り上げ、各分野で実践、研究で活躍されている4人の先生方に現状と今後に向けての課題を報告していただき、討論では“働きたい”を支えるためには、いずれの分野も生活者としての労働者へ目を向けることが必要で、労働環境から生活環境支援へまで広げていくことの重要性が明らかになりました。

今回の全国協議会の特徴は、産業保健機能の強化、多職種の役割と連携、医師の働き方改革、地域・職域連携、生涯を通じた健康支援、健康経営の進め方など、いずれもすべての労働者へ産業保健を届けるための多くの課題がテーマとなり、各々について報告、熱心な意見交換が行われました。

地域格差、企業規模による格差、正規・非正規など雇用形態による健康格差が広がる中で、すべての労働者が産業保健サービスを受けられるよう、“幸せに働き続ける”ために東北でもこれらの活動を進めていきたいと考えます。

今回の全国協議会開催にあたり、東北地方会の皆様、ご支援をいただいた各部会をはじめ内外の多数の関係者の皆様に感謝いたします。



産業医部会

全国協議会を終えて～産業医部会～

医療法人健友会 本間病院
菅原 保福島県立医科大学医学部衛生学・予防医学講座
各務 竹康

産業医部会では、「産業医が知っておきたい復職支援のポイント」としてシンポジウム形式での自由集会を開催いたしました。まずは産業医科大学病院両立支援科の立石清一郎先生より、産業医と主治医の連携の在り方について講演をいただきました。その後、メンタルヘルス事例について(株)明電エンジニアリングの小森陽子先生より、脳卒中事例について(株)SUMCOの彌富美奈子先生より講演をいただきました。どの先生も実体験に即した事例について、対応のポイントをわかりやすく解説いただき、明日から即実践に使えるのではないかと思います、素晴らしい内容でした。最後の総合討論では、現場での具体的な事例についての相談や、連携に際して生じた困難な対応の紹介など、非常に盛り上がり、会の終了後も個別に講師の先生に相談する方も多くおられました。会場は立ち見が出るほど多くの方にお越しいただき、今回設定したテーマは、多くの先生方が興味を持たれている、タイムリーな内容であったと自画自賛させて頂きました。

部会としての公式行事は自由集会和幹事会でしたが、今回はアンオフィシャルにて幹事懇親会を開催いたしました。東北の酒と肴に皆で舌鼓を打ちましたが、東北の酒がおいしすぎ、ついつい飲み過ぎた先生も多くおられたそうです。

産業医部会のつながり、東北地方会のつながり、双方の強い絆を感じ、無事全国協議会を終えることができました。支えていただいた皆様に、厚く御礼申し上げます。



自由集会



幹事会懇親会

産業看護部会

全国協議会を終えて

青森県立保健大学看護学科
千葉 敦子NTT 東日本医療・健康管理センタ
村越 亜弥子

第29回日本産業衛生学会全国協議会が、多数の参加者をいただき盛会に終了しましたことに心よりお礼申し上げます。産業看護部会が主に企画運営したプログラムについてご紹介いたします。

シンポジウムは、「地域・職域連携で“働きたい”を支える～生涯を通じた健康支援を目指して～」のテーマで、人間環境大学の巽あさみ先生から国の動向を踏まえた最新情報について基調講演をいただきました。シンポジストの宮城労働基準協会岩淵範好先生からは、宮城県大崎市を中心に地域と職域が連携した取組が社員のモチベーションアップに繋がった良好事例のご報告をいただきました。酒田地域産業保健センターの中野あゆみ先生からは、小規模事業所の産業保健活動について現状と課題・連携について保健師としての思いをお話頂きました。青森市保健部部長の浦田浩美先生からは、「あおもり職域健康づくりリーダー」の育成についてご紹介頂き、保健・医療、学校、企業と協力しながら市民総ぐるみで健康づくり活動を推進されている活動についてご報告頂きました。

教育講演は、「産業看護活動に活かせるデータの集め方、まとめ方、伝え方」をテーマに、国際医療福祉大学の和田耕治先生にご講演いただきました。産業看護活動の質を高めるロジックモデルとPDSAについて、身近な事例を交えて、わかりやすくご説明いただきました。産業看護職が実践活動を評価し、改善することに役立つ有意義な講演となりました。

その他、自由集会においては、産業保健機能の強化へ向けて看護職の果たすべき役割や産業保健看護専門家制度について活発なディスカッションが行われました。

多数の看護職のご参加があり、研鑽と共に、仙台名物を楽しみながら会員相互の親睦が図られたのではないかと考えております。

最後になりましたが、このたびの運営を支えてくださった産業看護部会の幹事の皆様、そして東北地方会の運営委員、会員の皆様に心より感謝申し上げます。

産業衛生技術部会

事例発表の事業所確保に苦勞

河合環境コンサルタント事務所 所長
河合 直樹

まずは「大成功」と自他ともに認める全国協議会であったと思います。その成功を陰で支えてこられた事務局のご労苦に深く感謝申し上げたいと思います。

産業衛生技術部会では、下記の3つ企画を実施しました。

- 1) シンポジウム：「生物学的ハザードと作業環境」
- 2) シンポジウム：「作業環境測定が変わる！個人サンプラー測定の導入」
- 3) 教育講演：「化学物質の安全衛生管理の実際～地元事業所の取組事例報告～」

1) 2) については、親部会が主体で準備を進めた企画であり、任せて安心といったところでしたが、3) については、東北地方会が主体となって進めた企画であり、事例発表を行ってくれる事業所の確保に正直大変苦勞しました。産業衛生学会での発表というだけで、二の足を踏む事業所が多い中、3事業所（花上労働衛生コンサルタント事務所・スリーエムジャパンプロダクツ・東北大学）にご協力をいただき、お陰様で立ち見が出るほどの盛況で活発な討議も行われ、無事終了することができました。

2018年2月の第1回実行委員会時点では、そもそも「全国協議会」って何？というレベルからのスタートでしたが、橋本晴男部長はじめ、中央の部会スタッフのご指導と適切なアドバイスによって、なんとか、つつがなく地方幹事としての役目を果たせたことに安どしております。

スタッフのみなさん、大変お疲れ様でした。



産業衛生技術部会教育講演会場の様子
(立ち見が出るほどの盛況でした)

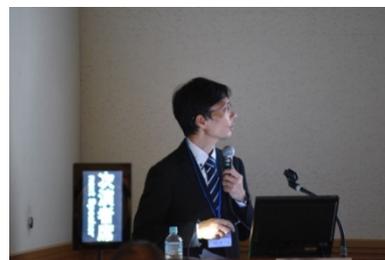
産業歯科保健部会東北大学病院歯周病科
井川 資英

第29回日本産業衛生学会全国協議会が9月12日(木)～14日(土)に仙台国際センターで開催され、歯科保健部会は以下の3つのプログラムに参画させていただきました。

- 1)教育講演「働くための口腔のコミュニケーション機能と健康格差を考える：職域で最も多い疾患への対策」
演者：相田潤先生（東北大学大学院歯学研究科国際歯科保健学分野）、座長：加藤元先生
- 2)4部会合同シンポジウム「産業保健における歯科の関わりについて」演者：安田恵理子先生（大阪歯科大学航空衛生学講座）
- 3)シンポジウム「働きたい人を口から支える」演者：飯久保正弘先生（東北大学病院 周術期口腔支援センター）「口から支える元気な就労～特に周術期の口腔健康管理について」、および小山重人先生（東北大学病院 歯科部門 顎口腔再建治療部）「頭頸部腫瘍治療後の就労者における顎顔面補綴からの支援」。座長：井川資英

以上の企画、全て盛況でした。この他、口腔保健関係での一般演題2台も頂戴いたしました。

また、13日(金)夜7時から部会懇親会を仙台市一番町のイタリアンレストラン「ミアアンジェラ」で約30名の御参加で行いました。演者の相田先生及び飯久保先生もお忙しい中を御参加くださり、いつにも増して活気溢れる楽しい懇親会となりました。その後は半分以上の方々に、文化横丁「たら福」に席を移しさらに楽しい二次会となりました。



相田潤先生



飯久保正弘先生

第 78 回日本産業衛生学会東北地方会のご報告

令和元年 7 月 26 日(金)から 7 月 27 日(土)に、「産業保健におけるストレスへの取り組み」をメインテーマに第 78 回日本産業衛生学会東北地方会(学会長:坂田清美)を開催致しました。紙面を借りてご報告申し上げます。

7 月 26 日(金)は非常に暑い中、事業所見学から始まりました。32 名の参加者を迎え、岩手県予防医学協会 Big Waffle を訪れました。同協会では、健康診断・人間ドック・健康支援・環境調査などの予防医学事業を大規模に行っており、産業医学分野でも健康診断、ストレスチェック、作業環境測定、健康相談、精密検査外来、嘱託産業医活動など多岐にわたる活動を行っております。様々な事業を一体的に行っている現場を目の当たりにし、新しい産業保健活動とは何か、じっくり考える良い機会になりました。見学にあたり、専務理事の武内健一先生、産業保健支援部長の立身政信先生、産業保健部長の茂木隆先生、健康推進部長の関向和明先生、他多くのスタッフの皆様には大変お世話になりました。

その後、ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING「モン・フレーブ」に移動し、日本産業衛生学会理事長の川上憲人先生をお迎えして、第 3 回「理事長と話そう」を開催しました。今年のディスカッションは、若手の意見が非常に多く、例年以上に活発なものとなりました。引き続き開催された懇親会では、43 名の方々にご参加頂きました。川上先生に加え、特別講演を引き受けて下さいました堤明純先生、産業医協議会シンポジストを引き受けて下さった堀愛先生もご参加下さいました。余興の山野草クイズ(撮影者:学会長)も行い、岩田豊人先生が優勝しました。フレンチとお酒を楽しみながら、和気藹々と過ごし、最後には恒例の写真撮影も行いました。

27 日には岩手教育会館を会場として、87 名のご参加を頂き、一般演題発表、役員会、総会、特別講演、分科会を開催致しました。一般演題は 3 管理をはじめ様々な立場から、合計 10 題の発表を頂きました。午後には特別講演として、堤明純先生(北里大学)に「ストレスチェックに関するエビデンス」とのタイトルでご講演を頂き、ディスカッションも活発に行われました。分科会では産業医・看護・技術・歯科保健の各分会に分かれ討論が行われました。産業医協議会では、シンポジウム「女性医師、女性労働者の働き方」が行われ、野村恭子先生、堀愛先生(筑波大学)にご講演頂きました。また、産業看護のつどいでは、鈴木淳平先生(仙南中央病院)に「発達障害を持つ方の就労支援」と題してご講演を頂き、椅子が足りなくなるほどの大盛況でした。

共催頂きました岩手県医師会、東北地方会の皆様のご協力により、盛会裏に終了することが出来ました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

(文責:第 78 回日本産業衛生学会東北地方会事務局長 田鎖愛理)

第79回日本産業衛生学会東北地方会開催のお知らせ

- ・会期：2020年7月17日、18日
- ・会場：青森県男女共同参画センター
青森県子ども家庭支援センター アピオあおもり
(〒030-0822 青森市中央3丁目17-1)
- ・学会長：井原一成（弘前大学大学院医学研究科社会医学講座 教授）
- ・内容：2020年7月17日：事業所見学、懇親会
2020年7月18日：一般演題、特別講演
第24回 産業医協議会
第27回 産業看護の集い
第15回 産業衛生技術部会
産業歯科保健部会
- ・第79回地方会学会事務局：弘前大学大学院医学研究科社会医学講座内

*東京オリンピック開催のため、例年より一週間早い、7月第3週目の開催となりますので、ご注意下さい。



第78回日本産業衛生学会東北地方会懇親会会場にて

産業看護とうほく

第37号 2019. 11

発行者: 日本産業衛生学会東北地方会
産業看護部会

連絡先: 〒030-8505

青森県青森市大字浜館字間瀬 58-1

青森県立保健大学 看護学科 千葉敦子

発行責任者: 千葉敦子・村越亜弥子

第26回産業看護のつどい ご報告

2019年7月27日(土)に第78回日本産業衛生学会東北地方会が、盛岡市で開催されました。今回は「産業保健におけるストレスへの取り組み」をメインテーマに、一般講演、特別講演が行われ、多数のご参加をいただきました。

第26回の産業看護のつどいでは、近年、職域の産業看護職から要望が多い「発達障害の方の就労支援」と題して、仙南中央病院 非常勤 精神科専門医 鈴木淳平 先生に講演いただき、東北六県から34名の方にご参加いただきました。

ご講演の内容は発達障害の分類と特徴を始め、どのようなことで困るのか、事例を通して職域でのハード面・ソフト面の両方の視点からの対策が必要であると説くとともに、具体的な事例を踏まえ対応の仕方など、とてもわかり易くご説明を頂きました。特に一般的な精神科医は発達障害を専門とせず、大人の発達障害と就労に理解のある精神科医は稀であると説明され医療機関に過大な期待をしないと説明された事は大変印象的でした。発達障害者への就労支援の難しさを突き付けられた思いがしましたが、役割分担と連携の重要性や、外部資源の利用によりよい支援へとつなげることが可能であることから、抱え込まず、協力を要請してくことの必要性を学びました。

講演後のアンケートからは、「具体的な事例も入っており情報がわかり易くイメージしやすかった」「企業としての対応が具体的でわかりやすかった」「1人で頑張らずチームでやることの大切さを感じた」「様々な方と連携して対応していくことが大切だと思った」「鈴木先生がいるといいと思った」など、参加者からは満足の声と鈴木先生のお人柄も伝わるようなコメントが寄せられました。

今後はそれぞれの職場で、発達障害の方の就労支援に活かしていければと思います。





各県の産業看護部会活動報告

- 【青森】 青森産業保健主催の看護職向け研修会でデータ分析の演習を開催したところ盛況であった。運営委員が欠員状態のため引き続き募集中である。
- 【秋田】 秋田産業保健総合支援センターでの研修会は企業における両立支援やストレスチェックを活かした職場の環境改善など、今の産業保健に必要な内容が盛り込まれていた。秋田産業保健総合支援センターの研修会の前に秋田産業保健会の会合を開催し、活発な意見交換を行い有意義だった。今年度秋田大学保健学科の実習を実施する予定である。
- 【山形】 昨年度初開催で好評であった産業保健総合支援センター主催の産業看護職研修（事例検討）を今年度も開催予定である。山形県保健師人材育成検討会へ山形県国保連、全国健康保険協会山形支部も参加した。山形県糖尿病及び慢性腎臓病重症化予防の取り組み事業に健保組合等から構成される山形県保険者協議会も参画し、プログラムを共同で展開した。
- 【岩手】 産業看護職研修会を開催し岩手産業保健総合支援センター産業保健専門職萩野とも子氏より「治療と職業生活の両立支援の岩手の現状について」講話いただき、職域の現状を知ることができた。7月の東北地方会岩手開催では職域から要望の高い「発達障害の方の就労支援」と題し仙南中央病院 鈴木淳平先生の講話予定であり期待が高い。
- 【宮城】 仙台為になる産業保健勉強会ではアビリティーズジャスコ株式会社、株式会社リヴァ、認定NPO法人Switch、株式会社ジャパンEAPシステムズの4社から活動紹介の機会を設け、44名の参加、新規入会者が14名あり今後の活動範囲の広がりが期待される。宮城産業保健総合支援センター主催研修会では、治療と仕事の両立支援、メンタルヘルス不調者の職場復帰の進め方、発達障害の基礎知識について開催された。
- 【福島】 福島産業看護研究会（インテル）は2か月毎に開催継続中で、「人生100年時代に向けた健康管理」として2019年テーマを掲げている。新福島赤十字病院の見学会や女性労働者の健康管理（ライフサイクルとの関係）、精神障害を持つ労働者と職場の対応について講義を実施した。福島産業看護協議会、産業看護職能力向上講座（前期）では発達障害の従業員への対応の講義や事例検討を実施した。



【お知らせ】山形の運営委員は中野あゆみさんから森鍵祐子さんへ交替しましたので宜しくお願いいたします。

【編集後記】平成から令和へと新しいおめでたい年にあやかり、産業看護部会の会員も増加するよう祈りたいです。（岩手：藤井）

会員の異動(令和元年5月から令和元年11月)

■青森県

新入会	大賀 佳子 (慈恵クリニック)	転 出	新井 志穂 (東京都へ)
	木村 聡美 (NTT 東日本健康管理センター北東北担当)	退 会	石垣 洋子
	田中 幸子 (八戸西検診プラザ)		及川 敦子
転 入	木村 峰子 (千葉県から)		鎌田 満

■岩手県

新入会	澤田 智史 (岩手医科大学医療工学講座)
転 入	仲本 光一 (東京都から)
	弥富 耕平 (千葉県から)

■秋田県

新入会	丹治 史也 (日本赤十字秋田看護大学)
	南部 泰士 (日本赤十字秋田看護大学)
転 入	渡辺 啓介 (石川県から)
転 出	村田 勝敬 (鳥取県へ)

■宮城県

新入会	松村 亜紀子
	玉澤 絵理 (東北電機製造株式会社)
	高田 望 (東北大学大学院医学系研究科)
	富樫 敦子 (富樫社会保険労務士事務所)
	佐藤 晶子 (登米市民病院)
	長南 淳子 (日本通運(株)仙台航空支店)
	村上 知征 (東北医科薬科大学若林病院)
	吉田 淳史 (株式会社 リヴェア)
	平田 匠 (東北大学東北メディカル・メガバンク機構)
	土屋 菜歩(東北大学東北メディカル・メガバンク機構)
	森谷 美結 (NTT 東日本健康管理センタ)
	齋藤 郁恵 (WAK 産業看護オフィス)
	河原 克雅 (仙台白百合女子大学)

■山形県

新入会	富樫 久美 (富樫歯科医院)
退 会	本間 香織
	渡辺 孝男

■福島県

新入会	橋本 康弘 (福島県立医科大学看護学部生命科学部門)
	横山 智美 (福島県警察本部 警務部厚生課)
	島津 勇三 (総合南東北病院)
転 入	江口 依里 (岡山県から)
転 出	遠藤 真理 (大阪府へ)
	坂本 和志 (千葉県へ)
退 会	佐藤 綾香

編集後記

今回の「みちのく」は、9月に開催された、第29回日本産業衛生学会全国協議会の報告を中心に企画しました。学会期間中は天候にも恵まれ、又、連休前だったことも幸いしたのか、全国から予想を上回る、1177名の皆様にご参加いただきました。嬉しい誤算ではありましたが、準備した抄録集が不足するなど、一部の参加者にはご迷惑をおかけしました。この場をお借りして、お詫び申し上げます。同協議会では、例年の事業場見学の他に、「産業保健現場における応急救護所体験訓練」や「震災遺構見学ツアー」など被災地ならではの企画も開催しました。参加者の皆様からは、協議会全体を通じて、概ね好評をいただいた様です。東日本大震災から約9年が経過しようとしています。産業保健に関わる皆さんの震災とその後の復興への関心は未だ高いと感じました。今回の協議会では、東北地方会員の皆様に学会当日スタッフとして大活躍していただきました。本協議会の大成功は、東北地方会員スタッフの支援なくしてはあり得なかったと思っております。改めて、産業衛生学会東北地方会の結束の強さと底力に感心し、誇らしく感じた次第です。スタッフとして参加して下さった皆様、本当にありがとうございました。東北地方会 万歳! (T.I)